令和 8 年度 第 1 回 運営推進会議 会議録

事業所名	しろひげレンジャー24時
作成者	島田 淳也

開催日時	令和8年7月22日（水）				開催場所	タワーホール船堀		
参加者	進行 管理者	スタッフ	船堀熟年相談室	区役所	居宅介護	居宅介護	居宅介護	居宅介護
	島田	原嶋	中村様	及川様	三谷様	高井様	石毛様	星野様
	居宅介護	訪問看護	訪問看護					合 計
	鎌田様	渡邉様	高橋様					11 名

内 容		
	1 開会の挨拶	4 江戸川区の現状と今後の課題
	2 出席者の自己紹介	5 具体的な活用事例の共有
	3 定期巡回サービスの理解	6 意見交換・評価

番 号	内 容
1	開会の挨拶
2	出席者の自己紹介
3	定期巡回サービスの基本的な仕組みや訪問介護との違いを説明。
4	江戸川区の高齢化推移と在宅生活へのニーズから、なぜ今、24時間体制の定期巡回サポートが必要かを共有。
5	定期巡回利用者様の事例から自立度の維持・向上に繋がったケースや、緊急時の随時対応など、実際の支援内容を共有。
6	■訪問看護（ウィル訪問リハビリステーション葛西支店） ・排泄ケアやストーマ管理など24時間対応が必要な方にとって非常に助かっている ・緊急コール用の専用端末（ボタン1つで繋がる機器やペンダント型）の存在を初めて知り、安心感につながると感じた。 ■区役所（及川様） ・緊急コールは多いか？ →利用者様によっては訪問対応も多いが電話で済むケースもある（不安解消）。 ・退院直後からすぐに支援に入るがケアマネージャーは暫定プランを作成するのは難しくないか？ →ケアマネージャーから新規のご相談あり、契約するしない関係なく、退院前カンファレンスに同席させていただいたりし、プランの提案をするケースもある。 ■居宅介護支援事業所（テルウェル東日本中央ケアプランセンタ 三谷様） ・老健から退院し、レンジャーに定期巡回で入っていただいている利用者様がいる。スムーズに在宅生活へ移行することができ、ご本人様も安心されている。 ・もっと早く定期巡回を理解していればレンジャーにお願いできるケースもあったと後悔。 ■地域包括支援センター（船堀熟年相談室 中村様） ・生活援助（掃除・買い物など）まで細やかに対応してくれる定期巡回事業所は貴重。 ・職員11名で24時間体制（夜勤含む）を回されている点への労いと感謝。 ■居宅ケアマネジャー（日本リック小松川事業所 星野様・石毛様） ・定期巡回は「安否確認のみ」での訪問が可能である点が訪問介護との大きな違いであり強みと感じた。また土日も入っていただけるのが助かっている。 ・転倒を繰り返す方の駆けつけ対応（緊急コール）のリアルな運用（※コール後、巡回ルートの状況により順次駆けつけ）について確認。 →緊急時のみだと夜間対応型訪問介護で対応しているケースも説明。 ■居宅介護支援事業所（ぺこら居宅介護支援事業所 鎌田様） ・サービス拒否傾向のある認知症の方への柔軟なアプローチ（訪問時間の変更や声かけ方法の工夫）についての相談。 ・コール機端末の操作は簡単なのか？ ボタン一つ押すだけで呼ぶことができ、首に掛けたりもできるペンダントタイプもあることを説明。端末機は固定電話の回線がないと設置できないため、固定電話がない方は携帯電話にボタン1つで押せるよう登録したりして対応している。 ■居宅介護支援事業所（ダイバーシティー之江 高井様） ・訪問看護との連携（連携型定期巡回）の仕組みや料金体系（看護師の定期モニタリングや訪問看護コードなど）について確認・理解を深めた。 ・コール端末の設置費用は定期巡回基本料金に含まれており追加費用がかからない点も確認。 ■訪問看護（カーサ訪問看護リハビリステーション 高橋様） ・今回で3～4回目の参加だが、回を重ねるごとに具体的な利用イメージや議論が活発になっている。 ・退院直後の一時的な集中利用からADL回復による「定期巡回卒業・訪問介護への移行」という素晴らしい自立支援モデルが共有できた。点眼・服薬などの短期・高頻度ニーズでの活用可能性についても言及。